第１回 学校運営協議会議事録

日　時：令和３年７月５日（月）15:30～17:00

場　所：本校第１展開教室

議　事

１ 校長挨拶

２ 出席者紹介

３ 会長選出

４ 令和３年度学校経営計画について（校長）

・概略説明

（１）「生徒を伸ばし、伸び行く学校」の実現

①教務部より（教務主任）

・来年度から新カリキュラム。特に国語、社会に関しては科目が大幅に変わり、社会は地理が必須になる。国際文化科の理系希望者の進路を確保するため、理科の科目を設定している。今年の教科書選定については、見本本を示し報告する。

・来年度から観点別評価が導入されるので、現在検討中。今年度２学期に試行を予定。

②ICT 担当首席より

・授業アンケートについて

経年変化を見るため、内容は毎年同じ。結果は２回目以降でお示しする。

・GIGA スクールについて

本年度、教務部内にＩＣＴ事業委員会を発足。教室に Wi-Fi 整備、教員用に１人１台タブレットを配付し、職員向け研修を実施。

保護者との連絡もオンラインをめざす。

２学期には全教室にプロジェクター整備、10 月 1 日までには生徒一人一人にタブレット配付予定。

③保健部より

・スクールカウンセラーによる教育相談を月一度実施。保護者や生徒の相談、教員とのケース会議に参加していただいている。昨年と比較すると、生徒の相談件数が減っている。昨年はコロナ禍による学校の休校もあり、生徒の不安が高かったためか。相談内容は、発達障害についての理解や、友人関係、家庭問題、学習進路など多岐にわたる。保健室来室も昨年より減。

④人権教育推進委員会より

・いじめ・ハラスメント防止のため、年に二度生徒向けアンケートを実施。気になる記載のあった生徒には、担任より聞き取りを行い、早期対応に努めている。

⑤総合担当首席より

・総合的な探究の時間について

「枚方未来学」と名付け、ＳＤＧｓをメインに３か年計画で取り組んでいる。１，３年生

はグループワークを中心に、市役所との連携企画も行っている。２年生では修学旅行と関連させ、文化の多様性を学んでいる。

（１）について協議・意見交換①

Ｑ：今年度は保健室登校が減り、相談件数も少ないようだが、実際担任等の教員が感じている生徒の困り感、気になることと相談件数の乖離についてはどう捉えているか。

Ａ：相談日が月に一度、限られた時間ということもあり、生徒の方から申し込んでくることは少ない。生徒の状況については、週に一回の支援委員会で共有をしており、その中でカウンセラーにつなぐ必要のある生徒を検討し、直接声をかけることが多い。生徒本人が希望せず、相談につながらないこともある。

→まず担任が最初の窓口として機能している。教員間で共有できている結果、相談件数が少なくおさまっていると感じる。

Ｑ：中学校では生徒を学校運営に参加させることで、自尊感情を育てたいと考えている。小中学校はタブレットを１年早く配布した。使用のルールについては生徒に決めさせようと考えている。高校ではどうか？

Ａ：本校ではクラスにＩＣＴ委員を２名決める予定。担任より生徒の方が詳しいことも多い、生徒の考えを取り入れながらＩＣＴの活用を進めていきたいと考えている。

Ｑ：小学校でも、１年生からロイロノート上手に使いこなしている。今の小１が高校生になるころにはどうなるか。ギガ上限を超えたり、様々な情報にたどり着いてしまうなどの問題も起こっている。ルールを決めていくことの必要性を感じている。ＳＤＧｓは小学校でも取り組んでいる。国語の力を使ってアウトプットする取り組みを行っている。高校でもカリキュラムマネジメントの視点はありますか？

Ａ：現在、総合的な探究についての評価の方法を見直しており、ルーブリック等を活用することで、より客観的な評価をめざす。また、他の教科にも普及させるとともに、学びの質が高められるよう検討している。

（２）「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」の実現

①生徒部より

Ｑ：スマホ依存等の問題はあるか？

Ａ：全体的な傾向としては、スマホが手元にないと不安に感じる生徒は多いが、学業に支障をきたしている等の報告はない。

（３）「グローバルに考え、行動する学校」の実現

〇国際関係学科長より

・国際教養科、国際文化科向けプログラムとして、外国語キャンプ、インターナショナルフェスティバル、１０校合同課題研究会（英語での発表も）に参加している。また、第二外国語の授業でも検定等の導入を検討している。

・例年夏休みに海外滞在研修を実施していたが、コロナの影響で実施できず、オンライン交流を開始。現在１年生の希望者が自分たちでビデオレターを作成し、オーストラリア

の生徒と交流予定。

Ｑ：第二外国語の取り組みについて何に力を入れる予定か？

Ａ：本校ではスペイン語、フランス語、中国語、韓国朝鮮語が選択できる。検定取得等、見える形で生徒たちの達成感が得られるような取り組みを考えている。

（４）「教員組織体制強化と環境整備」

〇文化国際部長より

・学校説明会（学校開催）９月１０月の２回実施予定。９月は体験授業なし。１０月は状況次第で体験授業ができないか検討している。市町村、中学校で開催される説明会にはできるだけ参加したい。

Ｑ：中学校ではペーパレス化や連絡のオンライン化で職員会議を減らすなどしているが、それでも教員の疲弊感なくならない。高校ではどうか？

Ａ：教員用クラス用のトレイがあり、紙資料が行きかっているのが現状。予算的にもかなり削減の余地がある。お知恵を拝借したい。

Ｑ：小中は様々なアプリケーションを使っておられると思うが、高校のタブレットにはアプリが入れられない仕様になっている。自由度は高いが、パッケージされた学習アプリがないため、教員の ICT スキルが求められており、意識改革も必要。先生方のお知恵をお借りしたい。

Ａ：枚方では、小学校はロイロノート、中学校はみらいシートを利用している。容量でパンクしてしまうので、クラスルームを利用することも多い。

Ｑ：クラスルームを連絡用だけにするのではなく、活用するには？

Ａ：宿題、連絡、教員間の連絡等にクラスルームを活用。グーグルでシートを作成し、発表等に活用している。使う教員使わない教員のギャップはある。

Ｑ：働き方改革について

Ａ：枚方高校は時間外労働が少ないほうの学校といえる。

今後は小テストの採点、集約等を ICT 化することで効率化をめざしている。

時間外労働の原因は部活動が多いが、コロナ禍の影響で減っているという現状がある。

職員会議もペーパレス化が進んでいる。今後さらに進めたいと思っている。

Ｑ：今後大学入試が AO 化してくる。実際入試の中身も変わってきているか？入試が変わると小学校の学びも変えていく必要があると考えている。

Ａ：今年始まった共通テストでは出題傾向が変わっている。しかし、私大入試の出題傾向は変わっていない。観点別評価が始まっても、入試が変わるという報告は今のところない。

Ａ：大学でも入試方法が多様化している。学生数が減ってきていることも入試の柔軟さに影響してるのかもしれない。

５　校長より閉会挨拶